

平成 24(2012)年度

# 年次報告書



日本橋学館大学

# 平成24年度年次報告書

## 目 次

1. 建学の精神	2
2. 沿革	3
3. 学事関係	4
4. 教育研究組織	4
5. 法人役員・評議員・教職員の概要	4
6. 教育活動	5
6-1 教育課程	
6-2 3学科の教育目的	
6-3 クロスオーバー履修制度	
6-4 初年次教育	
6-5 少人数教育	
6-6 「ゼミナール」の目的と目標	
6-7 教職課程	
6-8 学芸員課程	
7. 研究活動	10
7-1 教員の研究業績	
7-2 研究・委員会活動	
7-3 研究所・センター・その他	
8. 学生	10
8-1 学部・学科の学生定員および在籍学生数	
8-2 留学生支援	
8-3 奨学金制度	
8-4 健康相談、心的支援、生活相談等	
8-5 就職・進学支援	
8-6 卒業生の進路	
9. 学生のクラブ・同好会活動等	17
10. 社会的活動	18
10-1 生涯学習支援センター	
10-2 大学コンソーシアム東葛	
10-3 図書館関係	
10-4 日本橋学館大学協力会	
10-5 出張授業	
10-6 地域における活動	
11. 募集活動	21
11-1 「大学説明会」の開催	
11-2 学長による高等学校長訪問	
11-3 本学専任教員による高等学校訪問	
11-4 オープンキャンパスの開催	
11-5 入学試験の実施	
12. 管理運営	23
12-1 校地、校舎等の面積	
12-2 講義室、演習室、学生自習室等の概要	
12-3 管理運営体制	

## 1. 建学の精神

本学を経営する「学校法人日本橋女学館」（以下、本法人という）の母体は、明治22（1889）年に設立された「日本橋区教育会」である。この「日本橋区教育会」が、明治37（1904）年に「日本橋女学校」（後に「日本橋高等女学校」）を設立し、明治38（1905）年から日本橋地区の子女の教育を開始した。この年の「日本橋女学校」の開校式で、初代校長・浦田治平の示した教育方針が「質実穩健」という言葉に集約されている。以来、二三の組織変更はあったものの、この「質実穩健」は本法人の「建学の精神」として今日まで受け継がれてきている。すなわち、大正4（1915）年に「日本橋区教育会」は「財団法人日本橋女学館」として独立し、その「設立寄附行為」第1条に、「本財団は、質実穩健なる学風の下に、日本橋区女子教育の普及発展を図るを以て目的とす」と規定している。

また、昭和23（1949）年には学制の改革により、「日本橋高等女学校」は「日本橋女学館中学・高等学校」となり、昭和26（1951）年には「財団法人日本橋女学館」を「学校法人日本橋女学館」へと組織変更しているが、「学校法人日本橋女学館寄附行為」第2章第3条においても、「この法人は、教育基本法及び学校教育法並びに私立学校法に従い、質実穩健なる学風のもとに学校教育を行い、社会に有用な人材を育成することを目的とする。」と規定して、「建学の精神」としている。

本法人は、昭和62（1987）年に80年の女子教育の伝統を生かし、当時の社会的要請に応えるため「日本橋女学館短期大学」を、現在の千葉県柏市に設置して、数多くの優れた卒業生を輩出してきた。その後、高等教育の高度化・多様化・個性化、科学技術の国際化・情報化や生涯学習社会への移行など、激変する時代に十分に対応できる人材育成を企図して、平成12（2000）年に女子短期大学を男女共学の4年制大学へと全面改組し、その名称も「日本橋学館大学」に改めて、新たなスタートを切っている。

本学の「学則」第1章・総則の第1条（目的）には、次のように記されている。

日本橋学館大学は、学校法人日本橋女学館草創の精神に則り、質実穩健の人格を育成し、総合的創造的な学術技術を研究教授して、社会においてこれを躬行実践、気品知徳の模範として指導的役割を果たす人材を育成するとともに、広く国際社会全体の平和と文化の発展に寄与することを目的とする。

このように、「寄附行為」及び「学則」にも謳われている本法人の「建学の精神」〈質実穩健〉は、明治38（1905）年に行われた「日本橋女学校」の開校式における校長訓示以来、100年以上にもわたって継承されてきた。しかしながら、時代の変化とともに、「建学の精神」も常に問い直されなくてはならない。平成18（2006）年12月に教授会の下部組織として発足した「将来計画委員会」では、本学の教学上における基本的な問題として、「建学の精神」の現代的意義、大学の「基本理念」及び「使命・目的」等を、1年余りをかけて慎重に検討した。その結果、〈質実〉とは「生活態度に飾り気がなくて真面目なさま」、〈穩健〉とは「考え方などが偏らず常識的である様子」等の辞書的な定義から出発して、最終的には〈質実穩健〉の現代的意義を、次のように定義することとした（平成19（2007）年7月18日、教授会承認）。

「質実」とは、人の暮らしや行動に派手さがなく、内容が堅実であること。すなわち、「質実」な生活を支えるための実学の伝承及び社会人としての基礎力の育成を目指している。「穩」は、心の有り様が「穩」やか、安らかなこと。「穩」やかな精神を育む、バランスのとれた幅広い教養と感性の教育を目指している。「健」は、身体が丈夫なこと。「健」やかな肉体、及び活力ある個性を育てることを目指している。

更に、〈質実穩健〉な人材の育成に要する「教育内容」として、〈質実〉であるためには「実学」を修得して専門性を高めること、〈穩健〉であるためには「教養」を身に付けることが必要であるという認識に到達した。ここから、本学の目指す教育研究上の「基本理念」は、「実学と教養を2本柱とする人間教育」とすることとし、「使命・目的」を「社会に貢献できる高い人間力を有した人材を育成すること」と定めたのである。

平成21（2009）年4月より、本学は「建学の精神」である〈質実穩健〉の現代的意義を踏まえた改組再編の結果として、従来の「人文経営学部」に代わって、「リベラルアーツ学部」を発足させてい

る。その「教育目標」としては、「基礎力を固め、専門性を高めつつ、幅広い教養を身に付けること」を掲げている。そのために、「教育内容・教育方法」の大幅な改善を図り、「初年次教育」・「少人数ゼミナール」・「クロスオーバー履修」等の特色ある「教育システム」を構築しつつある。究極的には、「人間力」（社会で生き抜く力、すなわち「社会人基礎力」）を培うことを目指している。

## 2. 沿革

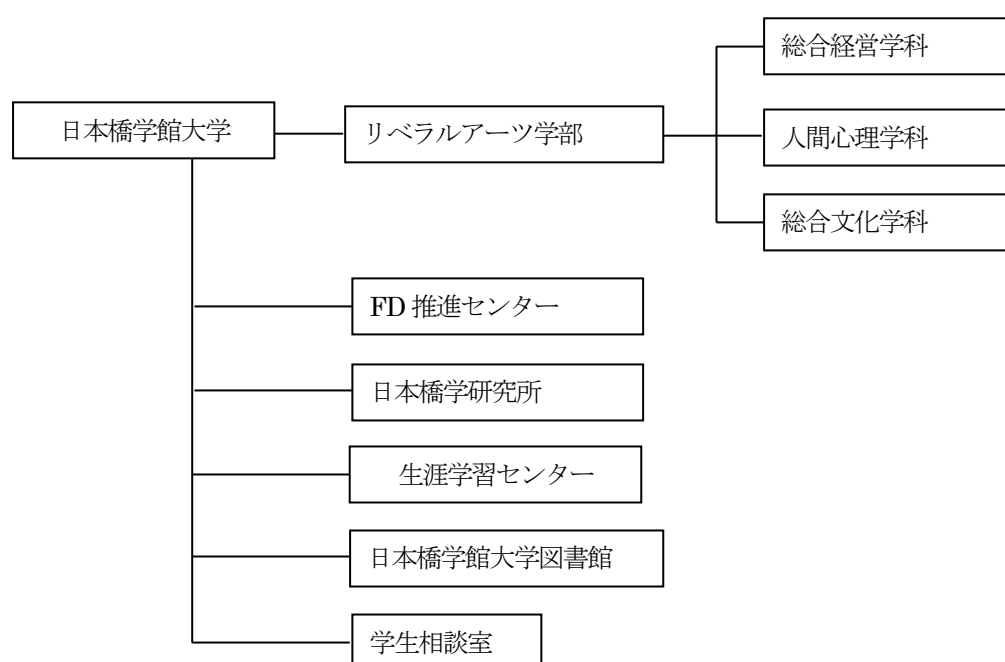
「建学の精神」でも語られているように、本法人は100年を超える歴史を持つ。それを母体として育った本大学は、その価値ある歴史と伝統を活かし、一方で、新しい時代に適応する活力を持った大学でありたい。

明治 37(1904)年	(社)日本橋区教育会に対し日本橋女学校(本科定員140名、修業年限4年)の設立認可
明治 38(1905)年	日本橋蛸殻町第一幼稚園舎で開校式挙行。『質実穩健』の教育方針訓示
明治 38(1905)年	5月1日、第一幼稚園舎で授業開始(創立記念日の起源)
明治 39(1906)年	高等女学校令に基づく私立日本橋高等女学校(4年制)に組織変更認可(当時、東京府下の高等女学校は府立4校を含めて7校)
明治 43(1910)年	柳原川岸三号地元千代田小学校跡に移転。修業年限5年、定員400名に変更
大正 4(1915)年	財団法人日本橋女学館設立認可
昭和 22(1947)年	学制の改革により私立日本橋女学館中学校となる
昭和 23(1948)年	私立日本橋女学館高等学校設置。私立日本橋女学館中学・高等学校と総称
昭和 26(1951)年	財団法人日本橋女学館より学校法人日本橋女学館に組織変更認可
昭和 30(1955)年	創立50周年記念事業実施
昭和 40(1965)年	創立60周年記念式典(秩父宮妃ご来臨)
昭和 54(1979)年	市川学校園研修センター(寄宿舎、テニスコート、グラウンド)完成
昭和 61(1986)年	日本橋女学館短期大学設置認可。入学定員/秘書科100名・英語科100名
昭和 62(1987)年	日本橋女学館短期大学開学(初代学長:角井 宏)
平成 7(1995)年	創立90周年記念式典
平成 11(1999)年	日本橋学館大学設置認可。入学定員/人文経営学部人文経営学科250名
平成 12(2000)年	日本橋学館大学開学(初代学長:小谷津孝明)
平成 12(2000)年	日本橋学館大学開学式、日本橋学館大学第一回入学式
平成 13(2001)年	日本橋女学館短期大学閉学
平成 16(2004)年	日本橋学館大学人文経営学部人文経営学科を3学科(人間関係学科、国際経営学科、文化芸術学科)に組織改組
平成 17(2005)年	創立100周年記念式典
平成 18(2006)年	第二代学長:横山幸三 就任
平成 21(2009)年	日本橋学館大学人文経営学部をリベラルアーツ学部に変更。3学科(総合経営学科・人間心理学科・総合文化学科、入学定員225人)を設置。教職課程・学芸員課程を設置。
平成 23(2011)年	入学定員150名に変更
平成 24(2012)年	第3代学長:北垣日出子 就任

### 3. 学事関係

- ・平成24年4月2日 入学式（新入生109人）
- ・平成24年4月3日～5日 ガイダンスウィーク  
(履修ガイダンス、学生生活ガイダンス、健康診断等)
- ・平成24年4月6日 前期授業開始
- ・平成24年5月1日 創立記念日
- ・平成24年7月26日 前期授業終了
- ・平成24年9月13日 後期授業開始
- ・平成24年10月27日・28日 柏学祭
- ・平成25年1月12日 後期授業終了
- ・平成25年3月19日 第10回卒業式（卒業生53人）

### 4. 教育研究組織



### 5. 法人役員・評議員・教職員の概要 (平成24年5月1日現在)

[役員]

職名	氏名	寄附行為上の選任条項
理事長	細田 安兵衛	第7条 第1項 第5号
副理事長	山本 泰人	第7条 第1項 第2号
副理事長	三田 芳裕	第7号 第1項 第2号
常任理事	北垣 日出子	第7条 第1項 第1号
常任理事	揚村 洋一郎	第7条 第1項 第1号
常任理事	藤山 一郎	第7条 第1項 第3号
理事	服部 一枝	第7条 第1項 第3号
理事	樋口 君子	第7条 第1項 第4号

理事	清水 満昭	第7条 第1項 第5号
理事	梅田 勝利	第7条 第1項 第5号
理事	岩山 康之	第7条 第1項 第2号
理事	宮入 正英	第7条 第1項 第2号
理事	西川 恵	第7条 第1項 第5号
理事	新堀 聡	第7条 第1項 第5号
監事	築地 照吉	第8条
監事	清水 紀美子	第8条

#### [評議員]

- ・ 寄附行為第 25 条第 1 項 (法人の職員) —— (6 名)  
服部一枝、揚村洋一郎、藤山一郎、北垣日出子、石原正雄、津川祐一
- ・ 寄附行為第 25 条第 2 項 (卒業生) —— (3 名)  
宮田栄子、樋口君子、菌部幸子
- ・ 寄附行為第 25 条第 3 項 (理事会選出) —— (3 名)  
梅田勝利、新堀 聡、西川 恵
- ・ 寄附行為第 25 条第 4 項 (学識経験者) —— (19 名)  
岩山康之、細田安兵衛、山本泰人、三田芳裕、和気潤一、松井巖司、廣田忠勇、清水千枝子、渡辺昌、木屋幸蔵、池木 清、清水満昭、角井 宏、宮入正英、中村庄八、山田徳兵衛、塩澤寛樹、繁田開作、須長隆一

#### [専任教職員]

大学教員：34 名      大学事務職員：21 名  
 高校教員：28 名      高校事務職員：6 名  
 中学教員：12 名      中学事務職員：4 名  
 法人本部事務職員：2 名  
法人合計：108 名

## 6. 教育活動

### 6-1 教育課程

平成 21(2009)年度に教育課程の改定を行い、本年度はその完成年度にあたる。下記に前・現カリキュラムを示すが、前カリキュラムに所属する学生は、本年度末で 4 名にすぎない。

従って、前カリキュラムに関する説明は省略し、以下、現カリキュラムについてのみ記すことにする。

#### 2 種類の教育課程

前カリキュラム (人文経営学部) — 平成 16(2004)年度に改定された教育課程。  
 平成 24(2012)年度の 4 年次留年者が該当し、以下の 3 学科 7 専攻で構成される。  
 人間関係学科——人間社会専攻・心理臨床専攻  
 国際経営学科——総合経営専攻・経営情報専攻・国際秘書専攻  
 文化芸術学科——美学芸術専攻・国際文化専攻  
 現カリキュラム (リベラルアーツ学部) — 平成 21(2009)年度に改定された教育課程。  
 平成 24(2012)年度の 1・2・3・4 年次が該当する。  
 総合経営学科  
 人間心理学科  
 総合文化学科

前カリキュラムでは、1年次に7専攻の教育概要を紹介する7つの「展望科目」すべてを履修した上で各自の専攻を選び、2年次より、それぞれの学科・専攻に所属するシステムをとっていた。一方、現カリキュラムでは、1年次から各学科に属し「専門科目」を履修できるシステムとした。現カリキュラムにおける教育課程編成の概要は以下のとおりである。

#### 教育課程編成の概要

共通科目	基礎科目 教養科目 キャリア科目 外国語科目 スポーツ健康科目	補習教育的科目(英語・国語・数学)を含む  1年次必修(第1・第2外国語) 1年次必修を含む	
	専門科目 (各学科)	導入的な科目 各専門の中心科目 発展的な科目	1年次 2~4年次 3・4年次
ゼミナールI~IV 卒業研究		1~4年次必修 4年次必修	

卒業に必要な単位数は以下のとおりであるが、他大学等で修得済みの単位を、原則60単位まで組み込むことが可能である。なお、各学年への進級条件に関する規定はない。

#### 卒業に必要な最低単位数

	総合経営学科・総合文化学科	人間心理学科
共通科目	8(必修)	8(必修)
自学科の専門科目	72 (内、必修20を含む)	74 (内、必修22を含む)
自学科の専門科目 共通科目 他学科の専門科目(注)	46	46
合計	126	128

(注) クロスオーバー履修制度により、他学科の専門科目(ゼミナール・卒業研究を除く)の修得単位数を、選択科目として組み込むことができる。

本学で、指定科目を履修することで取得できる資格は次のとおりである。

#### 取得できる資格

資格	主たる対象学科
秘書士、上級秘書士	総合経営学科
情報処理士、上級情報処理士	
認定心理士	人間心理学科
カウンセリング実務士	
中学校教諭一種免許状(英語・国語・社会)	総合文化学科のみ
高等学校教諭一種免許状(英語・国語・公民)	
学芸員	全学科(クロスオーバー履修)

## 6-2 3学科の教育目的

### 【総合経営学科】

企業経営の基本となる経営管理・会計・秘書・ITや、近年課題となっている健康・スポーツなどについて、理論的・実践的な専門性を身に付けるとともに、これらを社会で役立てられる実践力、ビジネスにおける効率的な組織運営や迅速で的確な意思決定にとって必要不可欠なITスキルをベースとした情報力やコミュニケーション力、社会人の基礎力を育成する。

### 【人間心理学科】

人間を見つめる心理学的素養とカウンセリングマインド、客観的思考を可能とする科学的素養を持ち、社会人として豊かな人間関係を築ける人材、心理学的視点で人間・社会を見つめる力を持つ人材を育てる。具体的には、基礎心理学、臨床心理学、医療・保健・福祉に及ぶ豊富な専門科目に支えられた心理学的素養を持つ人材、臨床家を育成する。

### 【総合文化学科】

日本や外国の文学・言語・美術・音楽・演劇・民俗・歴史・教育など、人間が生み出した文化についての専門的で総合的な理解を身に付け、あわせて人間の社会的活動を科学的視点からとらえることができるような人材を育成する。

## 6-3 クロスオーバー履修制度

本学の教育課程における独特な制度として、クロスオーバー履修制度があり、幅広い教養人育成のために設けられている。この制度は、開学以来のものであり、他学科の専門科目（ゼミナール・卒業研究を除く）の自由な履修・単位取得(卒業要件に算入)を認めている。

## 6-4 初年次教育

平成15(2003)年以降、新入生全員を対象に、大学という新しい環境に適応できるようにするために、専任教員による指導を充実させてきた。開始時には、「1年生ゼミ」(単位なし)を設けたが、平成16(2004)年度の改組により前カリキュラムの「キャリアプランニングⅠ」(1単位・必修)となり、現カリキュラムでは「ゼミナールⅠ」(1単位・必修)に改定された。これらの指導は、学生が所属する学科の専任教員が担い、担当教員1名につき8人前後の学生を対象として行われる。具体的活動としては、履修指導、基礎学力の育成、図書館オリエンテーション等を実施し、学生生活全般にわたった指導を行うとともに、学生間の親睦もはかっている。

初年次の第1外国語科目(英語・フランス語・ドイツ語・中国語の1種類が選択必修)については、同一教員が週2回の授業を行うことで基礎力の充実をはかっている。その中でも英語科目に関しては、入学時に行う基礎力テストに基づく習熟度別クラスを編成している。

## 6-5 少人数教育

本学は、小規模大学である上に、幅広い教養教育を行っているために、すべての科目において少人数のクラス編成となっている。履修者数の上限は、次のように設定している。

履修者数の上限(原則)

科目区分	履修者数の上限
情報機器科目	30人
演習・実習科目	30人程度
講義科目	60人程度



## 6-6 「ゼミナール」の目的と目標

「ゼミナール」は少人数クラス編成によって、専任教員による丁寧な指導がなされており、1年次から4年次まで通年の必修科目となっている。その目的と目標は以下のとおりであるが、1年次と2年次には、学習面に加えて大学生生活全般にわたる指導も行い、3年次と4年次には、「卒業研究」につながる専攻分野の教育を主として行っている。

各年次のゼミナールにおける目的と目標は、以下のとおりである。

ゼミナール	目的	目標
I (1年次)	大学における学習活動の基礎を作る	新たな環境である大学生活への適応 図書館での図書資料の検索 レポートの作成
	学習習慣の定着化	意欲的に授業に出席し、理解し、わからないことを質問できる姿勢
	コミュニケーション能力を培う	教員や友人との信頼関係の構築
	自己表現力を培う	自己紹介などの自己表現練習
II (2年次)	専攻分野の選択へ向けた準備	専攻分野の把握と自己の興味の確認
	問題解決能力の基礎を培う	問題点の指摘
	社会生活を営むための姿勢を培う	社会常識の理解、実践
III (3年次)	専攻分野の研究の基礎を培う	専攻分野の基礎の理解 専攻分野の必要資料などの検索 論理的思考力の育成
	将来を展望する	進路と人生の目標の探求
IV (4年次)	専攻分野に対する深い理解	専攻分野における問題発見、解決、まとめ、発表 卒業研究の完成
	将来を展望する	進路についての明確な目標

このような目的・目標を達成するために、ゼミナール担当教員は、学習支援に加えて、次の役割等を担っている。

- ・学生が履修科目選択する際の相談・指導と履修登録の際の確認
- ・履修単位数の少ない学生や欠席の多い学生に対する相談・指導
- ・各種資格取得を求める学生への支援
- ・学生の進路に関する、キャリアセンターと連携した指導
- ・大学からの必要に応じた学生への連絡
- ・学生の個人的なさまざまな相談・指導

## 6-7 教職課程

リベラルアーツ学部への改組に合わせて教職課程を設置することとなり、文部科学省の認可を受けて平成21(2009)年度より運用を開始している。

平成24(2012)年度は設置4年目(完成年度)となり、卒業時に本学最初の免許状取得者を出した。なお、教育実習、介護等体験、教員就職支援などの必要な活動について随時準備を進め、学年ごとに定期的に年数回のガイダンスを実施し、指導にあたっている。

教職課程の設置学科および取得可能な免許状

総合文化学科	中学校教諭一種免許状（英語） 高等学校教諭一種免許状（英語）
	中学校教諭一種免許状（国語） 高等学校教諭一種免許状（国語）
	中学校教諭一種免許状（社会） 高等学校教諭一種免許状（公民）

教職課程の履修要件\*

免許状の種類	基礎資格	教科に関する科目	教職に関する科目	教科又は教職に関する科目	合計
中学一種	学士の学位を有すること	20 単位	31 単位	8 単位	59 単位
高校一種		20 単位	27 単位	16 単位	63 単位

\*教育職員免許法施行規則等に定める必要単位数。このほか教育職員免許法施行規則 66 条 6 により「暮らしのなかの憲法」「スポーツ実技 I・II」「外国語（1 科目）」「情報機器の操作 I・II」の修得が必須となる。また中学 1 種の取得のためには「介護等体験」が義務づけられる。

教職課程の登録は、2 年次進級時に行う。1 年次には、共通科目として設定されている「学校と教育の歴史」「心身の発達と学習過程」「学校の制度」を随意に履修して、学校教育および教職についての関心を高め、学生自らの志向や適性を確認してから教職課程に登録することを推奨している。なお、上記 3 科目は「教職に関する科目」に算入される。

### 6-8 学芸員課程

教職課程と同じく、リベラルアーツ学部への改組に合わせて学芸員課程を設置することとなり、文部科学省の認可を受けて平成 21(2009)年度より運用を開始している。平成 24(2012)年度は設置 4 年目(完成年度)となり、卒業時に本学最初の学芸員資格の取得者を出した。

主として総合文化学科の正規の授業を受講しながら、同時に、学芸員課程として規定されている単位を修得すれば、学芸員の資格を取得できるシステムを採用している。総合経営学科および人間心理学科の学生についても、クロスオーバー履修を活用して同資格を取得することが可能である。

なお、博物館法施行規則 1 条 1 に定める「博物館に関する科目」(必修科目)として以下の科目を設置している。

2011 年度までの入学者(15 単位)	2012 年度の入学者(19 単位)
生涯学習論	生涯学習論
博物館概論	博物館概論
博物館経営・情報論	博物館経営論
博物館資料論	博物館資料論
博物館実習	博物館資料保存論
視聴覚メディアと教育	博物館展示論
学校と教育の歴史	博物館情報・メディア論
	博物館教育論
	博物館実習

このほかに「文化史」「美術史」「民俗学」の 3 分野のうち、2 分野以上から 8 単位以上の選択科目を修得すれば学芸員資格を認定される。これらの選択科目は総合文化学科の専門科目および全学科の共通科目として設定されており、上記の必修科目を含めてすべて卒業単位に算入できる。

## 7. 研究活動

### 7-1 教員の研究業績

本学専任教員の研究業績については本学ウェブサイトの下記ページに掲載されているので参照のこと。

総合経営学科	<a href="http://www.nihonbashi.ac.jp/gakubu/keiei_kyouin.php">http://www.nihonbashi.ac.jp/gakubu/keiei_kyouin.php</a>
人間心理学科	<a href="http://www.nihonbashi.ac.jp/gakubu/shinri_kyouin.php">http://www.nihonbashi.ac.jp/gakubu/shinri_kyouin.php</a>
総合文化学科	<a href="http://www.nihonbashi.ac.jp/gakubu/bunka_kyouin.php">http://www.nihonbashi.ac.jp/gakubu/bunka_kyouin.php</a>

### 7-2 研究・委員会活動

平成 24 (2012) 年度における教員の研究・委員会活動については次のとおりである。

- ・『紀要』第 12 号を刊行した。(原著論文 3 点、研究ノート 1 点)
- ・科学研究費補助金(日本学術振興会交付分)の交付を受けた研究は次のとおりである。(研究代表者・五十音順に記載)
  - ① 武家肖像彫刻の基礎的研究 研究代表者：塩澤 寛樹教授(2011 年度よりの継続)
  - ② 「南アジアにおける密教の展開 —『ヴァジュラダーカ・タントラ』原典研究— 研究代表者：杉木 恒彦講師
  - ③ 「親子相互作用査定尺度 JNCATS に基づく次世代センシティブ支援ネットワークの構築」 研究代表者：寺本 妙子講師

### 7-3 センター・その他

平成 24(2012) 年度の研究所・センター等における活動は以下のとおりである。

- ・「FD 講演会」を平成 24 年 12 月 19 日に「FD から始める学園改革」という演目で実施した。
- ・学生を対象に「授業アンケート」「WEB アンケート」を実施した。
- ・教職員を対象に「授業公開」を実施した。

## 8. 学生

### 8-1 学部・学科の学生定員および在籍学生数

平成 24 年 5 月 1 日現在

学部・学科	入学定員	編入学定員	収容定員	在籍学生総数	在籍学生数				
					1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
					学生数	学生数	学生数	学生数	
リベラルアーツ学部	総合経営学科	65	5	330	169	34	60	55	20
	人間心理学科	40	5	170	130	40	45	28	17
	総合文化学科	45	5	280	123	35	33	39	16
リベラルアーツ学部合計		150	15	780	422	109	138	132	53
人文経営学部	人間関係学科	—	—	—	5	—	—	—	5
	国際経営学科	—	—	—	4	—	—	—	4
	文化芸術学科	—	—	—	7	—	—	—	7
人文経営学部合計		—	—	—	16	—	—	—	16
合計		150	15	780	438	109	138	132	69

平成 24 年度志願者および入学者の出身高校の地域別人数と割合

		志願者数 (人)	全志願者に対する割合 (%)	入学者数 (人)	全入学者に対する割合 (%)
リベラル アーツ 学部	千葉県	40	32.0	32	37.6
	北海道	0	0.0	0	0.0
	東北	7	5.6	5	5.9
	関東 (千葉県を除く)	53	42.4	36	42.3
	甲信越	5	4.0	4	4.7
	北陸	1	0.8	0	0.0
	東海	8	6.4	5	5.9
	近畿	2	1.6	0	0.0
	中国	0	0.0	0	0.0
	四国	1	0.8	1	1.2
	九州・沖縄	1	0.8	0	0.0
	その他*	7	5.6	2	2.4
	合計	125	100	85	100

\*その他：外国の学校を卒業した者、高等学校卒業程度認定試験等の合格者

## 8-2 留学生支援

入学時の留学生オリエンテーションにおいて、「留学生の手引き」を配付し、学生委員長から説明を行った。

経済的支援については、成績と登校状況の良い留学生を対象に、予算の範囲内で授業料の一部免除を行った。また、不登校気味の留学生には、ゼミナール担当教員と学生担当部署で連携を取り、面談等を行った。

また、留学生と日本人学生の国際交流を深める目的で、研修旅行を企画し、参加を募ったが、希望者が催行人数に達しなかったため、今後内容の検討が必要である。

## 8-3 奨学金制度

学生に対する経済的な支援として、本学独自の制度を設けている。加えて、日本学生支援機構の第一種・第二種奨学金や、私費外国人留学生学習奨励費、地方公共団体や民間団体の奨学金、国の教育ローン等外部資金の情報も学生に提供しており、充実した奨学金制度が活用されている。なお、本学独自の制度は以下のとおりである。

奨学金の名称	給付 貸与 の別	備 考
日本橋学館大学学生に対する住宅 費補助	給付	遠隔地出身者で一人暮らしの者に補助 (年額 25 万円) 留学生は除く

日本橋学館大学私費外国人留学生奨学金	給付	学業、出席状況、経済状況を考慮して選考し、授業料の一部を免除
日本橋学館大学私費外国人留学生住宅費補助	給付	入学時に住宅を賃借する際、一時金として月額家賃の3ヶ月分（上限10万円）を補助
日本橋学館大学特待生奨学金	給付	学業、経済状況等を考慮して選考し、授業料の一部を免除 留学生は除く
日本橋学館大学スポーツ・文化芸術特待生	給付	活動実績に応じて、授業料の一部を免除
兄弟・姉妹の入学者に対する減免制度	給付	本学に兄弟、姉妹が在学している入学者対象。入学金半額免除
地元高等学校出身者に対する減免制度	給付	地元高校出身の入学者対象。入学金半額免除
日本橋女学館内部進学者奨学金	給付	併設校卒業の入学者対象
理事推薦高校出身者に対する減免制度	給付	理事推薦高校出身の入学者対象。入学金半額免除
留学生特待生	給付	勤勉で高い日本語能力を有し、特待生入試（留学生）で合格した留学生
被災学生に対する減免制度	給付	主たる家計支持者が、災害救助法適用地域において震災による被害を受け、学納金の減免を希望する者対象（被害状況等により異なる）

#### 8-4 健康相談、心的支援、生活相談等

学生の心身の健康と健全なる生活のために、以下の窓口や施設等を設置して、さまざまな相談に適切に応じられるように努めている。

なお、新入生に対しては、入学直後にガイダンスを実施し、学生生活、防災、学生相談室等についての説明を行った。防災、学生相談室については独自のパンフレットを作成し配付した。

##### ・「なんでも相談」窓口

事務局窓口に、「なんでも相談」窓口を設置し、学生がどの部署へ相談して良いのかわからない場合に相談できる窓口として活用し、対応した職員が迅速に関係部署と連携を図ることにより、早期の問題解決に努めている。

##### ・保健室

看護師が学生からのさまざまな健康相談を受け、必要に応じて、学生相談室カウンセラーや学校医と連携を図っている。

また、新入生については、入学直後のガイダンス時に「保健調査票」を記入させ、学生の健康状態を把握し、相談時の参考資料として活用している。

保健室利用者状況

所見あり ※病気、怪我、メンタルヘルスの主訴が明確な学生

単位：人

学年 在籍者数	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	計	比率 (%)	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女			
1年 109人	男	2	9	10	5	0	3	24	17	4	0	0	74	143	33
	女	6	17	11	12	1	3	8	7	3	1	0	69		
2年 138人	男	12	30	23	12	1	4	8	18	6	4	0	118	149	35
	女	4	7	1	6	0	2	2	4	5	0	0	31		
3年 122人	男	1	10	17	16	0	6	4	7	6	1	0	68	97	22
	女	3	5	2	6	0	3	4	4	2	0	0	29		
4年 69人	男	1	3	1	7	0	0	1	7	1	0	0	21	45	10
	女	3	1	5	8	0	0	4	1	2	0	0	24		
計 438人		32	82	70	72	2	21	55	65	29	6	0	434	100	

症状別

単位：件

症状・疾患名		件数	計
外科	筋肉痛	5	53
	捻挫	12	
	打撲	15	
	切り傷	10	
	その他	11	
内科	頭痛	50	448
	腹痛	86	
	咳・くしゃみ咽頭痛	105	
	発熱	8	
	その他	199	
計		501	

所見なし ※病気、怪我などの主訴が特でない学生

単位：人

学年 在籍者数	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	計	比率 (%)	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女			
1年 109人	男	12	21	49	19	0	8	101	78	20	4	0	312	501	34
	女	19	25	33	24	0	15	27	30	12	4	0	189		
2年 138人	男	68	84	107	32	0	9	21	37	11	8	0	377	463	32
	女	4	14	23	15	0	10	8	6	5	1	0	86		
3年 122人	男	17	42	23	38	0	15	6	11	15	2	0	169	299	20
	女	10	10	14	27	0	12	16	25	15	1	0	130		
4年 69人	男	3	11	10	31	0	11	8	11	15	1	0	101	209	14
	女	13	12	5	35	0	14	0	2	23	4	0	108		
計 438人		146	219	264	221	0	94	187	200	116	25	0	1472	100	

### ・学生相談室

学生生活における不安・悩み・疑問などについて、心理カウンセラー（非常勤の臨床心理士1人）とピアカウンセラー（非常勤の本学卒業生1人）、本学の間心理学科所属の専任教員（2人）が、週4日交替で「学生相談室」を開室し、相談に応じている。また、昼休みはサロンとして開放し、昼食をともに取る、音楽サロンを開き、皆でセッションするといった活動をしている。

学生相談室利用状況

単位：件（人）

学年 (在籍者数)	月別利用件数									計
	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	
1年 109人	2(2)	3(2)	4(3)	3(2)	1(1)	9(4)	9(2)	10(4)	10(4)	51(9)
2年 138人	0	0	0	1(1)	0	0	0	4(2)	8(2)	13(3)
3年 122人	4(2)	4(2)	5(2)	5(3)	4(1)	5(4)	5(3)	0	0	32(7)
4年 69人	6(2)	4(2)	11(3)	6(3)	5(2)	8(3)	9(2)	4(2)	2(2)	55(6)
保護者	0	0	1(1)	1(1)	0	0	0	0	0	2(1)
その他	0	0	0	0	0	1(1)	0	0	0	1(1)
計 438人	12(6)	11(6)	21(9)	16(10)	10(4)	23(12)	23(7)	18(8)	20(8)	154(27)

相談内容

単位：人

	学業	進路	生活	心理	その他	合計
1年	0	0	0	9	0	9
2年	0	0	0	3	0	3
3年	0	0	0	7	0	7
4年	1	0	1	4	0	6
保護者	0	0	1	0	0	1
その他	0	1	0	0	0	1
合計	1	1	2	23	0	27

学業：履修・留年・休学・研究・教職など

生活：健康・課外活動・家庭・経済など

進路：大学院・専攻・就職・人生など

心理：精神衛生・性格・対人関係など

### ・教員によるサポートアワー制度

専任教員により、原則週1回、各教員の研究室で、決められた時間帯にサポートアワーを設け、訪問してくる学生に対する各種相談を行っている。

## 8-5 就職・進学支援

### ・キャリアセンターの取り組み

学生に対する就職・進学支援は、キャリアセンター、キャリア委員会、ゼミの担当教員の全学的な取り組みで行われている。毎月のキャリア委員会では、求人状況、内定状況、支援講座等への出席状況の分析を行い、教授会で委員会報告を行い、本学の進路体制の統一性を維持している。また、各学科会議において、キャリア委員が各学科の進路問題に対処している。

3年次を対象とする「個人登録カード」による進路調査を起点に、ゼミの担当教員、キャリア委員、キャリアセンター職員から相談・助言できる体制を構築している。キャリアセンターでは、「個人登録カード」をもとに学生の名前と顔を一致させ、学生の顔が見える face to face の対応を心掛け、学生の個別就職相談に応じる体制を整えている。平成24年度は31名の就職希望者に対する年間の相談・指導実績は延べ823件であった。また、「進路支援セミナー：学内合同企業説明会」（6/15, 1/22 実施）、「就職支援講座」（6/7, 6/8, 6/21, 6/22, 6/28, 6/29, 7/5, 7/6 実施）の出席学生状況・その感想記録、SPI模擬テストの結果、適性検査の結果等、指導上有効に活用できる資料を常備して、当該学生の相談・助言の際の資料としている。

上記に加えて、3,4年生を対象にキャリアカウンセラーによる就職カウンセリングを実施し、延べ146名の学生が利用した。また4年生を対象にハローワークのジョブサポーターによる就職相談を学内にて開催し、延べ184名の学生が利用した。さらに、保護者向けに「保護者対象進路個別相談会」を6月16日（土）に実施した。

### ・キャリア教育の充実

文部科学省の大学設置基準の改正に合わせて、キャリア教育全体の充実を図っている。特に、1年次より共通科目として「キャリアデザイン」科目を開講し、各学年のゼミとも連動させた。1年次の「キャリアデザイン基礎・I」では新たに、社会人との対話を行うワークショップ型の「ハタモク」を導入し、前期2回、後期1回実施した。効果測定の結果、社会人との対話を通して学生の話す力と自己効力感を高める効果が認められ、社会人イメージもポジティブなものに変化することで、その後の学習姿勢や大学生活の充実を通して将来のキャリアを考える機会となった。2年次では就職試験（民間・公務員）対策「キャリアデザインII・A」、3年次（4年次）では就職環境の理解と活動・面接対策等を指導する実践編「キャリアデザインB・C」を配置した。尚、キャリアデザイン基礎・Iは前年度の外部機関による実践的キャリアガイダンスの内容を参考に専任教員が新たな内容で担当し、キャリアデザインII・A・B・Cは、従前の「進路支援講座」の内容を外部講師が担当している。また、2・3年次を対象に専門科目として「インターンシップ」を配置し、平成24年度は12名が参加した。



8-6 卒業生の進路 (平成24年度)

平成25年4月30日現在

卒業生数 ( ): うち人文経営学部		内 訳 ( ): うち人文経営学部						
		就職希望者			進学	アルバイト	帰国・結婚	その他
		内定者	活動中	計				
男性	30 (5)	18 (1) (90%)	2 (1) (10%)	20 (2) (100%)	2	5 (3)	0	3
女性	23 (1)	7 (1) (64%)	4 (36%)	11 (1) (100%)	0	4	1	7
合計	53 (6)	25 (2) (81%)	6 (1) (19%)	31 (3) (100%)	2	9 (3)	1	10
学科 人数	就職 (進学)	内 定 企 業 名 ・ 進 学 校 名						
総合 経営 20	12 (1)	<p>建設：(有)政右エ門インテリア</p> <p>製造：(株)内山アドバンス</p> <p>電気・ガス：(株)オン・ザ・プラネット</p> <p>情報・通信：テックウェア(株)、日本企画(株)</p> <p>卸売・小売：(株)三和、(株)アローエンタープライズ、サトウ商事(株)、オーチアス(株)、(株)ベイシア、(有)葎崎商店、(株)ジャパンビバレッジホールディングス、(有)アイエムシー</p> <p>不動産：リブナビ(株)、JR 貨物・不動産開発(株)、(株)マーキュリー</p> <p>宿泊・飲食サービス：(株)ル・サントレーヌ、玉乃屋(株)</p> <p>専門・技術サービス：ライフカレッジ(株)</p> <p>教育・学習支援：(株)学栄</p> <p>医療・福祉：(株)山根メディカル</p> <p>サービス (その他)：ジェイコム(株)、リンクスタッフ(株)、(株)インテリジェンス、テイケイ(株)</p> <p>進学 (大学院)：国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究所、日本大学大学院 商学部 研究科</p>						

## 9. 学生のクラブ・同好会活動等

学生のクラブ・同好会活動は以下のとおりである。

平成24年5月現在

体育系クラブ	人数	文化系クラブ	人数
硬式野球	53	アーティスティック（美術）	11
バスケットボール	10	軽音楽	23
バドミントン	23	管楽アンサンブル（WEL 響）	8
フットサル	12	食文化研究会（SWEETS）	8
ミニテニス	15	演劇	12
陸上競技	4	国際交流	4
バレーボール	5	気晴らし娯楽演芸研究会 （ENTERTAINMENT）	14
パワーリフティング	5		計80人
	計127人		

### <同好会>

卓球、天文、服飾、落語・お笑い研究会、NGU教育研究会、書道、Nカルチャット

小規模大学であるため、団体数は少ないが、主に硬式野球部・パワーリフティング部・陸上競技部・バドミントン部の大会出場での活躍が目立った。

なお、パワーリフティング部においては、男女ともに世界大会へ出場し、女子は43kg級で優勝という輝かしい成績を残した。また、日本橋女学館岩山スポーツ特別賞も授与された。

### ○柏学祭について

10月27日（土）・28日（日）の両日に開催された。柏市のサラリーマンによる「おやじダンス」や「地域交流BBQ」などの企画を含め、多彩な内容となった。また、初めての試みとして、顕彰制度を設け、来場者等の投票により学長賞などを受賞した団体には副賞として東京ディズニーリゾートのチケットが贈られ、活気のある大学祭となった。

## 10. 社会的活動

### 10-1 生涯学習支援センター

#### ・市民公開講座の実施

次のような内容の14講座を開講し、173人の受講者があった。

平成24年度 公開講座一覧表

開催日	講座名	担当教員	受講人数
10/12、19(金)	日本近代詩の夜明け －『新体詩抄』から島崎藤村まで－	柳沢 孝子	9
10/31、11/7、14(水)	『雨月物語』から「白峯」を中心に －三島由紀夫・石川淳に触れつつ－	佐々木 さよ	14
11/20、27(火)	王朝の恋文について－『蜻蛉日記』から探る－	服部 一枝	7
10/11、18(木)	唐詩を中国語で読んでみましょう	三枝 秀子	13
9/25、10/2、9、16、 23(火)	原文で読む『ハムレット』	安田 比呂志	7
10/3、10、17、24(水)	原文で読むドイツ文学	阿部 雄一	8
11/5、12、19、26(月)	バッハ《ゴルトベルク変奏曲》を聴く	飯森 豊水	15
11/13、20(火)	インドの仏像・神像 －身像から見るインドの仏教とヒンドゥー教－	杉木 恒彦	9
11/8(木)	最近の邪馬台国論 －箸墓古墳の築造年代と纏向遺跡の大型建物群跡－	太田 英比彦	41
10/13(土)	明治維新はいつ始まり、いつ終わったか	瀧川 修吾	18
10/6(土)	常識を変えた革命思想トマス・ホブス 『リヴァイアサン』を読む	瀧川 修吾	4
11/10(土)	人間の「こころ」の発達－乳幼児精神保健入門－	寺本 妙子	6
11/15(土)	フロイトの精神分析と現代の自己愛型社会	鳥越 淳一	7
10/23、30、 11/6、13、20、27(火)	若さと健康をサポートします！－ミニテニス－	高橋 早苗	15

## 10-2 大学コンソーシアム東葛

柏市の呼びかけにより発足した「大学コンソーシアム柏」は、平成23年9月から「大学コンソーシアム東葛」と改称し、地域と大学の連帯による知的資源を生かした街づくりを推進している。また、東葛地域の学生が大学や専門を超えて交流し、地域とフィールドに学びあい、地域、行政、大学と連携し、まちづくりに取り組むことを目的に学生ワークショップを実施している。

## 10-3 図書館関係

### ・ほぼ月らいぶ

図書館主催の無料コンサート「ほぼ月らいぶ」の今年度の開催回数は7回。定例となった千葉県を誇る中学校、高校の名門吹奏楽部の登場に加え、プロのピアニストによるレクチャー付きのコンサートを開催するなど、多彩な内容となった。動員数は約800人を数えた。内容は以下のとおりである。

No.	タイトル	開催日	動員人数
その24	松戸市立第四中学校吹奏楽部コンサートⅢ	2012年6月30日(土) 14:00~15:40	184
その25	前田まどか アコースティックライブⅢ 文月の奏で	2012年7月14日(土) 14:00~15:30	78
その26	市立柏高等学校吹奏楽部コンサート	2012年10月14日(土) 14:00~15:20	285
その27	ショパン ピアノコンサートとお話；マズルカ とポロネーズ ～芸術になった民衆のメロディ～	2012年12月8日(日) 14:00~16:00	135
その28	フランスバロック音楽～ベルサイユの響き～	2013年2月24日(日) 14:00~16:00	119

### ・ビブリオバトル2012

新企画として、知的書評合戦である「ビブリオバトル2012」を学園祭期間に図書館内で開催。5名の学生がバトルとして参戦した。約40名の観客を前に、持参した本について自分の言葉で推薦発表を行い、チャンピオンには総合文化学科2年の渡辺深佑が選ばれた。後日に行われた「柏市立図書館・市内大学図書館合同ビブリオバトル」に本学代表で出場した渡辺は、ここでもチャンピオンに選ばれる快挙を得た。

### ・平成24年度柏市立図書館・市内大学図書館合同企画

柏市立図書館と柏市内の4大学（本学および二松学舎大学・麗澤大学・東京大学）の各図書館による相互連携計画の一環として、合同企画展示と講演会を開催。今年度のテーマは、「健康とスポーツ」で、本学では宮下智教授による講演「アスリートから高齢者まで、『体幹トレーニング』を必要とするわけ」を学園祭期間に開催。約80名を集客した。

#### ・摘水軒コレクションの展示（図書館内）

肉筆浮世絵などのコレクションで名高い柏市の文化財団「摘水軒記念文化振興財団」の厚意により、3年前から貴重なコレクションの数々を図書館展示台で公開。日本の誇る名品から季節に相応しい所蔵品を選び、不定期に展示している。本年度は以下のとおりであった。

展示月	展示内容（作者等 / 作品名）
平成24年5月・6月	源琦 / 太夫の図
平成24年11・12月	観雪 / 唐美人図
平成25年1月・2月	<近世初期風俗画・作者不詳> / 節分図
平成25年3月・4月	溪斎英泉 / 桜下文読む美人図

#### 10-4 日本橋学館大学協力会

<「日本橋学館大学協力会」は、本学学生の生活を支える柏地域の人々を中心に、不動産業ならびに仲介業、商店主、商工主、柏地域の住民（企業）の方々に本学ならびに本学学生の支援、指導をお願いする目的で、柏商工会議所の後援により設立された。>

#### 10-5 出張授業・講義体験

中学生・高校生を対象に、その学校に本学教員が出向き大学での学習の楽しさ、本学の教育内容の充実と本学の良さを伝えた。

また、オープンキャンパス等でも体験講義を実施している。

- ・平成24年 6月21日（木）帝京中学校
- ・平成24年 6月28日（木）帝京中学校

#### 10-6 地域における活動

千葉県、柏市、印西市、白井市、北区、墨田区、愛知県における、各種委員会活動等に、本学教員が講師・委員として参加した。

## 1 1. 募集活動

### 1 1-1 「大学説明会」の開催

・平成24年度は実施せず。

### 1 1-2 学長による高等学訪問（高等学校長訪問含む）

千葉県	柏陵・沼南・松戸六実・松戸向陽・西武台千葉高校ほか
東京都	昭和第一・京華・京北白山・京華女子・京華女子高校ほか
新潟県	敬和学園高校
三重県	海星高校

### 1 1-3 本学専任教員による高等学校訪問

各教員が担当する高等学校を訪問した。訪問地区は次のとおりである。

千葉県	大学を中心とした東葛飾地区、総武線（市川や浦安）地区
東京都	23区の特に千葉寄りの地区
茨城県	水戸市より南の地域
埼玉県	さいたま市より千葉県寄りの地区

### 1 1-4 オープンキャンパスの開催

#### オープンキャンパス参加者集計結果

開催日程および参加者数

開催日	参加者（人数）	受験対象者（人数）
3月24日（土）	5	5
4月28日（土）	18	17
5月26日（土）	25	25
6月23日（土）	27	27
7月7日（土）	17	17
7月29日（日）	31	28
8月4日（土）	18	14
8月11日（土）	51	28
8月15日（水）	36	20
8月25日（土）	25	17
9月29日（土）	20	20
10月20日（土）	9	8
10月27日（土）	6	5
10月28日（日）	7	5
12月8日（土）	19	18
1月12日（土）	15	13
合計	329	267

#### 受験対象者（男女比）

性別	人数	割合
男	154	57.7 %
女	113	42.3 %
計	267	100 %

## 全体参加者の分類

分類	人数	割合(%)	分類	人数	割合(%)
3年	253	76.9	留学生	6	1.8
2年	37	11.2	その他	8	2.4
1年	25	7.7	合計	329	100

### ・県別参加者数

受験対象参加者が最も多い千葉県は、受験対象参加者 111 名（受験対象者全体 42%）であり、昨年度 125 名（受験対象者全体 46%）。受験対象参加者と割合が減少した。続いて受験対象参加者の参加者数順は昨年度と同様で東京都・埼玉県・茨城県となる。東京都は 54 名（受験対象者全体 20%）であり、昨年度 73 名（受験対象者全体 27%）。受験対象参加者と割合も減少した。埼玉県は受験対象参加者 37 名（受験対象者全体 14%）であり、昨年度 30 名（受験対象者全体 11%）。受験対象参加者と割合も増加した。茨城県は受験対象者 29 名（受験対象者全体 11%）であり、昨年度 25 名（受験対象者全体 9%）。受験対象者参加者と割合も増加した。

他県については、静岡県の実験対象参加者 15 名（受験対象者全体 6%）であり、昨年度 3 名（受験対象者全体 1%）から受験対象参加者と割合も増加した。長野県 6 名（昨年度 1 名）も受験対象参加者が増加した。また、福島県・神奈川県・新潟県・宮城県・群馬県・栃木県・その他は特に大きな変化はない。

単位：人

山形県	1	宮城県	1	福島県	2	群馬県	2
栃木県	0	茨城県	29	千葉県	111	東京都	54
埼玉県	37	神奈川県	2	山梨県	0	静岡県	15
長野県	6	新潟県	4	その他	3	合計	267

### ・通学過程の分類

全日制の実験対象参加者は 186 名（昨年度 215 名）。昨年度の実験対象者全体 79%から 70%と受験対象参加者と割合が減少している。通信制は 81 名（昨年度 58 名）。昨年度の実験対象者 21%から 30%と受験対象参加者と割合も増加している。

単位：人

全日制	186	通信制	81	合計	267
-----	-----	-----	----	----	-----

## 11-5 入学試験の実施

AO入試	8回	平成24年9月8日～年度末
推薦入試	6回	平成24年11月4日～年度末
一般入試	3回	平成25年2月4日～年度末
特待生入試	3回	平成24年11月4日～年度末
留学生入試	4回	平成24年11月24日～年度末
編入学入試	2回	平成24年11月4日～年度末
訪問入試		随時実施

## 12. 管理運営

本学は緑に囲まれた閑静な住宅地内に位置する。この地域は住居専用地域に指定されているため、高さ10m以上の建物が建てられないという制限等がある。よって設備の拡充には制約があるため、校舎面積は十分に余裕があるとは言えないが、大学設置基準上必要とされる面積は校地・校舎ともに満たしている。

### 12-1 校地、校舎等の面積

比較 対象	収容 定員	校地			校舎		
		基準面積	現有面積	差異	基準面積	現有面積	差異
日本橋学館大学	780人	9,300 m <sup>2</sup>	25,783 m <sup>2</sup>	16,483 m <sup>2</sup>	5,388 m <sup>2</sup>	8,079 m <sup>2</sup>	2,691 m <sup>2</sup>

※校地・校舎ともすべて専用

### 12-2 講義室、演習室、学生自習室等の概要

建物区分(面積)		用途	※( )内は部屋数等
校 舎	1号館 (4,159 m <sup>2</sup> )	大教室(マルチメディアルーム)、一般教室(9)、ゼミ室(3)、CALL教室(PC34台)、コンピュータ教室(4教室・PC120台)、和室、学習指導室、教職課程資料室、キャリアセンター資料室(PC2台)、応接室、学長室、教員研究室(30)、事務局(総務課、会計課、教務課、学生支援課、アドミッションオフィス、キャリアセンター、印刷室)、会議室(2) 学生ホール(106 m <sup>2</sup> )、学生食堂(345 m <sup>2</sup> )、学生会室、用務員室	
	2号館 (1,903 m <sup>2</sup> )	大教室(センターホール)、中教室(3)、一般教室(4)、女子更衣室、非常勤講師控室、生涯学習センター、教員研究室(1)、保健室、学生相談室	
	図書館棟 (2,005 m <sup>2</sup> )	図書館事務室、学習図書閲覧室、情報コーナー(PC10台)、応接室、書庫、こもれびホール(163 m <sup>2</sup> )、教室(2)、日本橋学研究所、教員研究室(9)、教員サロン、名誉教授室	
	警備室(12 m <sup>2</sup> )	受付	
計 8,079 m <sup>2</sup>			
体育関連施設(1,319 m <sup>2</sup> )		体育館(1,037 m <sup>2</sup> )、トレーニングルーム(222 m <sup>2</sup> )、管理室、シャワー室 *別棟の男子更衣室(60 m <sup>2</sup> )含む	



12-3 管理運営体制

